ラリグラス・ジャパン 2023 リポート

～ネパール・インドの女性と子どもの未来のために～

2023 年 11 月

認定特定非営利活動法人 ラリグラス・ジャパン（LJ）

〒108-0072 東京都港区白金 3-10-21

TEL＆FAX:03-3446-2193

E-mail:info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

【ご寄付のお願い】

ラリグラス・ジャパンでは、現在、以下の４つのプロジェクトへのご寄付をお願いしております。
ネパールとインドの女性と子どもたちの未来のために、何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。
※ご寄付は一口 1,000 円から承っております。複数口大歓迎です！
※寄付は寄付金控除の対象となります。

1　職業訓練…マイティ・ネパール本部とヘタウダ・プリベンションキャンプで行っている職業訓練への支援
2　EKATRA プロジェクト…レスキュー・ファンデーションで行っている雇用創出とエンパワーメントを目的とした各種トレーニングへの支援
3　お菓子詰め合わせプレゼント企画…年２回の訪問時、マイティとネパール障がい者女性協会（NDWS）の女性や子どもたちを激励するため、お菓子の詰め合わせを贈る企画
4　文房具プレゼント企画…マイティや NDWS の子どもたちに必要な文房具を贈る企画

	郵便口座・銀行口座
郵便振替	口座番号：００１００－５－７１３６６１ 加入者名：　トクヒ　）　ラリグラス　ジャパン ※銀行振り込みの場合 銀行名：ゆうちょ銀行 支店名：０一九（ゼロイチキュ）店　（019） 口座番号：当座　０７１３６６１
銀行振込	銀行名：　　三菱ＵＦＪ銀行 支店名：　　麻布支店（店番：570） 口座番号：　普通預金　０１５８０５４ 振込先名義：　トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン ※特定非営利活動法人としての口座です。
銀行振込	銀行名：　　三菱 UFJ 銀行 支店名：　　新宿中央支店（店番：469） 口座番号：　普通預金　４８５００６１ 振込先名義：　ラリグラスジャパン　ヨシダクミコ （ネットバンキングの場合、空白はカウントされません。） ※当面はこちらの口座も継続します。

は じ め に

日本で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されたのは2020年1月15日のこと。その年より、ラリグラスは 1998 年より継続してきたスタディツアーの実施を一時的に中止することにした。SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の飛躍的な発達のおかげで、今や数千キロ離れたネパールやインドに暮らす相手とも、容易にコミュニケーションが取れるとれる時代だ。コロナ禍にあっても、マイティ・ネパールやネパール障がい者女性協会(NDWS)、レスキュー・ファンデーション(RF)の女性や子どもたちの様子を把握し、パートナー団体の活動もなんとか支え続けることができた。

それでもやはり、リアルな世界には及ばない。目線を交わし、握った手の温かさを感じ、直に交流しなければわからないことは多く、現地訪問を控えていた間、歯がゆさを覚えることもあった。

2022年半ばから、ネパール、インドでは新規感染者数が落ち着き、かつての日常を取り戻し始めた。2023年になって入国後の行動制限が緩和されたことから、同年4月、3年8カ月ぶりに代表・長谷川が現地調査に赴いた。

2023年5月、WHOが新型コロナウイルスの感染拡大を受けて出していた「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表した。日本においては、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5月8日から季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行される。ネパールでは6月2日、それまで入国時に義務付けられていたワクチン接種証明書または陰性証明書の提示が不要となった。

こうした流れを受け、今年8月、4年ぶりにスタディツアーを実施することにした。

しかし、実施にあたってはいくつかの工夫が必要だった。

コロナ禍の影響を受け、多くの航空会社が減便対応をせざるを得ず、航空券は軒並み値上がりした。そこにロシアのウクライナ侵攻に原油価格の高騰が加わる。さらには円安も大きく影響し、燃油サーチャージが大幅に値上がった。結果、航空券代はコロナ禍前と比べて1.5倍以上に。現地物価も目に見えて高騰しており、従来のツアー料金で同様の旅程を組むことは不可能だった。

非常に悩ましいところではあったが、日程を数日短縮し、ツアー料金は据え置きとすることとした。

円安や物価高の影響もあり、日本人の多くが海外旅行控えの状況にあるようだ。そうした中、今回の4年ぶりのスタディツアーに2名の方が参加してくださった。少人数ではあったが、自分たちのもとを訪ねてくれたことを、現地の女性や子どもたちは心から歓迎し、喜んでくれた。

そんなツアーの様子を含め、昨年10月から今年9月までの活動状況についてご報告申し上げる。

ラリグラス・ジャパン

第40回ラリグラス夏のスタディツアー・スケジュール

日 時	スケジュール	宿 泊
8/21(月) 0:20	羽田空港発（タイ航空・TG661）	ｶﾄﾏﾝｽﾞ泊
4:50	バンコク着	HOLY
10:15	バンコク発 （タイスマイル航空・WE319）	HIMALAYA
12:25	カトマンズ着	
14:30	空港から直接マイティ・ネパール本部へ。保護施設、職業訓練施設、テレサ・アカデミー見学。テレサ・アカデミーの女の子たちとお菓子パッキング/配布	
16:30	ホテルチェックイン後、休息	
18:00	夕食	
8/22(火) 8:00	朝食	ｶﾄﾏﾝｽﾞ泊
10:00	ネパール障がい者女性協会（NDWS）デイケアセンター訪問、フィールドワーク	HOLY HIMALAYA
13:00	昼食	
14:30	ホスピス訪問（ビーズ指導）	
18:30	夕食	
8/23(水) 7:00	朝食	ﾍﾀｳﾀﾞ泊
7:30	ホテル出発、チャーター車でヘタウダへ移動（約 5 時間半）	HOTEL
13:00	ヘタウダ着、ホテルチェックイン後昼食	SAMANA
14:30	プリベンション・キャンプ訪問、施設見学および入所者に挨拶	
16:00	ホテル帰着後、フリータイム	
18:00	夕食	
8/24(木) 8:00	朝食	ﾍﾀｳﾀﾞ泊
9:00	プリベンション・キャンプ入所者との交流プログラム(ピクニック)	HOTEL
17:00	ホテル帰着後、フリータイム	SAMANA
19:00	夕食	
8/25(金) 7:00	朝食	ｶﾄﾏﾝｽﾞ泊
8:00	カトマンズに向けて出発（約 5 時間半）	HOLY
12:00	昼食	HIMALAYA
14:00	カトマンズ着。ホテルチェックイン後フリータイム。フリーマーケット商品仕入	
19:00	夕食	
8/26(土) 7:30	朝食	ｶﾄﾏﾝｽﾞ泊
9:30	ホスピスの女性と子どもたち、サバイバー(人身売買犯罪の被害女性)との交流プログラム(ピクニック)	HOLY HIMALAYA
19:00	夕食	
8/27(日) 8:00	朝食	ｶﾄﾏﾝｽﾞ泊
10:30	マイティ・ネパール本部訪問	HOLY
12:00	昼食後、フリータイム	HIMALAYA
18:00	夕食	
8/28(月) 8:00	朝食	機中泊
10:30	ホテルチェックアウト後、空港へ	
11:30	ネパール・トリブヴァン空港着(チェックイン)	
13:30	ネパール・トリブヴァン空港発（タイスマイル航空・WE320）	
18:15	バンコク着	
22:45	バンコク発（タイ航空・TG682）	
8/29(火) 6:55	羽田空港着	

目　次

は　じ　め　に **1**

第 40 回ラリグラス夏のスタディツアー・スケジュール **2**

現地報告 **4**

マイティ・ネパール本部 4
レスキュー・ファンデーション 11
ネパール障がい者女性協会（NDWS） 15

イベント・その他の活動（2022 年 10 月～2023 年 9 月） **17**

２０２２年度　決算・予算 **18**

２０２２年度　活動計算書（報告書） 18

【招聘事業・新刊案内】 **20**

計算書類の注記 21
財産目録／貸借対照表 23
監査報告書 24

２０２３年度　事業計画 **25**

会員・寄付者リスト **26**

【会員】 26
【寄付をしてくださった皆さま】 26
【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】 27
【活動にご協力くださった団体・皆さま】 27
【理事・役員】 27

スタディツアー感想文 **28**

現地報告
マイティ・ネパール本部

【2022 年 10 月から 2023 年 4 月】

■新型コロナウイルス感染症の流行が始まって以来、現地訪問を控えていたが、2023 年 4 月、3 年 8 カ月ぶりにネパールに赴いた。まず驚いたのは、街中を行き交う人たちだけでなく、マイティやネパール障がい者女性協会（NDWS）の女性や子どもたちもマスクを着用していなかった点だ。ソーシャルディスタンスを気にかける様子もなく、現地はすっかりかつての日常を取り戻していた。

しかし、調査を進める過程でコロナ禍によって被ったダメージからまだまだ脱しきれていないことがわかった。旅行業はネパール経済を支える重要産業だ。少しずつ旅行者も戻りつつあるようだが､以前のインバウンド数とは大きな開きがあり、ホテルやレストラン、土産物店をはじめ、食材を提供する業者や農家など、広範囲に渡って不景気が連鎖していた。

そこへ日本同様、物価が著しく高騰し、一般の人々は必需品以外の物を買い控える傾向にある。そのため、なかなか経済の回復
は見込めず、困窮世帯はさらに増加傾向にあるとのことだった。

■現在、ネパール国内のセックスワーカーは、カトマンズ市内だけで 1 万人にのぼるといわれている。マイティの調べによれば、その大半が農村部から人身売買された女性たちだ。

新型コロナウイルスの蔓延は、彼女たちの生活に打撃を与えた。感染拡大を防ぐため、2020 年 3 月から 4 カ月間のロックダウンが実施され、まったく仕事ができなくなったのだ。彼女たちの窮状を知ったマイティは、すぐに米や豆などの食料品やマスクをはじめとする日用品、金銭の支給に乗り出し、活動は後も継続された。

その過程で 2 つのセックスワーカー(14～68 歳)の自助グループとつながりができた。マヤ(50 代)をリーダーとする約 30 人のグループと、サムジャナ（30 代）をリーダーとする 20 人ほどのグループだ。知らぬ間に妊娠し、月日が流れるうちに出産に至るなど、子連れのセックスワーカーもおり、そうした子どもも含めると 60 人強の集団となる。客や警察とのトラブルや、病気や子どもの問題など、リーダーが相談を受け、互いに助け合っているという。マイティはこの 2 つのグループを継続支援しているのだ。

食料品や金銭の支給だけでなく、力を入れているのはテンプドライバーや重機オペレーターや美容師などへの転職サポートだ。1～2 万ルピーで開業できる屋台を開くという道もあり、この 3 年弱の間に約 300 人の転職が実現した。

人通りの多い場所に必ずあるスナックを売る屋台

■アヌラダさんが定期的に行っている夜間巡回に同行した。繁華街で屋台を営む元セックスワーカーの 20 代女性は、「売り上げは今一つだが何とかやれている」と笑顔を見せてくれたが、賑やかな通りを抜けると状況は一転する。シャッターを下ろした商店の軒下や橋の下で大勢の人が眠っており、中には年配の女性の姿もあった。

「あの女性はセックスワーカーです。ただ同然で客の相手をしています。危険な環境にあるので施設に入るよう声をかけていますが拒まれます。自由でいたいのでしょう」と話すアヌラダさん。こうしたハイリスクのセックスワーカーの支援を今後も続けていくとのことである。

マイティ本部に集合した自助グループのメンバー。国民票取得について、マイティの顧問弁護士からレクチャーを受けた

〈コロナ対策プロジェクト〉

コロナ禍によって急増した生活困窮者の支援および感染予防の啓発キャンペーン実施のために、2020 年から継続してきたコロナ対策プロジェクト。ご支援くださった皆さま、ありがとうございました！

2022 年 10 月～2023 年 9 月にご寄付くださった方々　（敬称略）

今村久美子　堤田芳和　橋元尚美　武藤禎

合計　26,000 円

■かつての日常を取り戻したネパールだが、ホスピスの女性たちには提携する外部の病院にかかるときか、マイティ本部で大きなイベントがあるときぐらいしか外出の機会はない。閉鎖的で単調な生活はストレスがたまるため、長年、本部の職業訓練の講師を務めてきたヨショーダさんを昨年から常駐させ、読み書きやヨガ、ダンスを教えてもらっている。楽しく学んでいるようで、ダンスと演劇を披露してくれた。

数カ月前、新しいスタッフとして若い夫婦（夫は門番、妻は調理）が雇用された。夫婦には 1 歳の男児がおり、みんなのアイドル的存在となって雰囲気を明るくしていた。

衣装を着用し、ダンスを披露する女性たち

■ヘタウダ・プリベンションキャンプは 25 人の女の子を対象に職業訓練が行われていた。順調に運営されているようだが、コロナ禍の頃は本当に大変だったという。外出制限によるストレスから世界的に DV の報告件数が増加したとされるが、ネパールでも DV やレイプ事件が増加し、毎日のように相談が持ち込まれた。ワクチンが不足しスタッフは未接種のままだったが、感染者で溢れる病院に妊婦を連れていくなど動かなくてはならない。ついに感染し、死ぬほどの思いをしたそうだ。やっと日常を取り戻したものの、犯罪件数は未だ増加傾向にある。今回訪問時も、叔父にレイプされて妊娠した 13 歳の少女が保護されていた。

「勉強することはとても楽しい」と話す生徒たち

【2023 年５月から９月】

■人身売買犯罪に巻き込まれる最たる原因は、貧困と教育機会の欠乏にある。そのためマイティは、犯罪から身を守るために必要な知識と収入向上を目的に、貧困家庭の女の子たちを対象として、基礎教育と職業訓練の機会を提供してきた。

ビーズアクセサリー制作や縫製技術トレーニング、機織り技術トレーニングはマイティ設立当初から行われてきた職業訓練だ。その後、美容技術トレーニングなども加わり、いくつかのコースの中から女性たちは関心のある分野を学べるようになった。

近年、力を入れているのはより実践的かつ少しでも多くの収入を得るための職業訓練だ。たとえば、「ブティックベース・テーラーリング・トレーニング」は、電動ミシンの使い方を学ぶコースである。

縫製技術のトレーニングは以前から行われていたが、使っていたのは足踏みミシンだ。普段使いのサリー・ブラウスやクルタの仕立てを請け負うには十分な道具だが、都市部のブティックに卸す衣類となると、より技術の精度が求められる。電動ミシンを使えるようになればさらなる市場を開拓でき、自分のブティック開業も夢ではないといえる。

■さらには、確かな需要が見込まれる職種として、昨年から重機オペレーターや電動リクシャードライバー(テンプドライバー)の訓練も始められた。

カトマンズ市内では以前から時折、女性のテンプドライバーを見かけることはあったが、地方ではまだまだ男性に限られた職業だった。そこでジェンダー差別廃絶を訴えるマイティが中心となり、こうした職種に女性も就くことができるよう職業訓練を始めたのである。

電動リクシャーを送られた女性３人。庶民の足として需要が高いため、ドライバーの仕事は、確実な現金収入が見込まれる

8月9日、マイティが運営するイタハリ・プリベンションキャンプで運転技術の訓練を受けた3人の女性に電動リクシャーが贈られた。このように、時代のニーズに沿った職業訓練を今後も展開していく計画である。

■8月5日、マイティはカトマンズ市内のレストランの屋上で、チャリティバザーを主催した。職業訓練で制作したビーズアイテムや、伝統的なダカ織のベビー服やショール、ビーズコースターなどさまざまな工芸品を展示販売した。

まずまずの売り上げがあり、制作者であるリハビリテーションホームの女性たちはとても誇らしげだったとのことだ。

職業訓練で制作された作品を販売したチャリティバザー

■保護された女性や少女たちには、縫製技術やビーズアクセサリー作り、バッグ作り等、さまざまな職業訓練の機会が提供される。これらの職業訓練にかかる費用としてご支援くださった皆さま、ありがとうございました！

2022年10月～2023年9月にご寄付くださった方々　（敬称略）

伊藤芳樹　上野祥子　國森佳子　下田伸子
堤田芳和　豊田健治　永谷恭子　野口恵里花
武藤禎　元田智子　合計171,000円

〈グッドニュース〉

■父親をAIDSで亡くし、母・スジャータ、兄・クリシュナとともに4歳でホスピスに保護されたマドゥさん。8歳の時に母親もAIDSで亡くし、以来、兄や他の子どもたちと一緒にホスピスで養育されてきた。

幼い頃から利発だった彼女は、優秀な成績で大学を卒業。ジャーナリズム専攻だったため出版社に就職する。その後、優秀さを買われ、アヌラダさんからマイティの広報スタッフとして働いてほしいと請われて転職。その仕事ぶりに高い評価を得ていた。

そんな彼女にチャンスが訪れる。オーストラリアの NGO が優秀な若者 2 名に対し、留学の機会を提供したいと申し出たのだ。これにマドゥさんとユブラジさんが選ばれ、オーストラリアのチャールズ・ダーウィン大学で修士号を取得するための留学が決定した。卒業後はマイティに戻り、再びスタッフとして活躍してくれる予定だ。その日を楽しみに待ちたい。

７月 19 日にマイティで行われた壮行会。努力して未来を切り開いた２人を目標に後輩たちも後に続いてほしい

〈ピクニック〉

■ホスピスの女性と子どもたちがずっと待ち望んでいたピクニック。4 年の歳月を経て、ようやく再開することができた。現在、保護生活を送っている女性や子どもたちに加え、18 歳になったことを機に独立した子、仕事を得て自活生活を送っている女性たちなどにも声をかけ、総勢 55 人の大所帯となる。以前にも訪れたことのあるバクタプルのピクニック場へ出かけ、ダンスや手品ショーで盛り上がる。久しぶりに会う者同士が近況を報告し合い、各々とても楽しそうな表情を見せていた。

コロナ禍の中の行動制限に加え、ラリグラスが現地訪問を控えていたため、外出の機会はほとんどなかった女性と子どもたち。帰路の車中、ある女の子がため息交じりにもらした「あーあ、ピクニック、終わっちゃった……」とのつぶやきに、どれほどこの日を待ち焦がれていたかを知る思いだった。

ツアーメンバーによる手品ショーも大盛況！

４年ぶりに出没したミツコとラジャ子が、子どもたちにリードされてダンスを披露。みんなも飽きることなく踊り続けた

ケータリングサービスで用意したご馳走の数々。グルメと名高いネワール民族の料理が並ぶ。マイティで供されるネパール料理にはないウォーや調理法が異なるアチャールにみんな興味津々。「すっごくおいしい！」とのことだった

近くの有名なお寺へ参拝。カトマンズにあるネパール最大のヒンドゥー教寺院・パシュパティナートに参ることができないこの地域の人たちのために作られた寺院とのことだ

楽しいひとときも終わりの時。最後にみんなで記念撮影！

〈ヘタウダ・プリベンションキャンプ〉

■コロナ禍以降、増加傾向にある性犯罪。今回訪問時も複数のレイプケースに関する報告を受けた。そのひとつがプロミラさん(18 歳)のケースだ。

11 人兄弟(男 3 人、女 8 人)の下から 2 番目の子として生を受けた彼女。幼い頃に父親を亡くし、生活はひどく貧しかったという。学校には 1 度も通えず、自分の名前さえ書くことができない。兄や姉は仕事や結婚で実家を出、末っ子の 14 歳の妹も口減らしのため、すでに嫁いでおり、プロミラさんは母と 2 人で暮らしていた。

5 月、体調不良が続くプロミラさんをカトマンズに住む兄が病院に連れて行ったところ、妊娠が判明。誰が父親なのかを含め何も話さないため、プリベンションキャンプに相談を寄せたところ、昨年 11 月、近所に住む 26 歳の学生にレイプされたことがわかった。

マイティはすぐに訴訟を起こすが、犯人は今も逃走中だ。札付きのワルとのことで、家族も「早く逮捕してください」と匙を投げているらしい。

中絶不可能な時期に入っていたため、数カ月後には出産の日を迎えることになる。大人しく無口な彼女だが、我が子については村に帰って自分で育てたいと話しているそうだ。また、このような状況に置かれているにもかかわらず、1 人残してきた母親をとても心配しているという。

年老いた母と乳飲み子を彼女 1 人の力で世話するのはどう考えても不可能だ。生まれてくる子はマイティが養育するのが最善の策であり、カウンセリングを重ねて本人の承諾を得る予定とのことである。

■マガル族の姉妹、姉・プラクリティ(9 歳)、妹・エリサ(7 歳)は、ヘタウダの街で物乞いをする母親といたところを保護された。そのまま放置していたら、性犯罪や人身売買犯罪に巻き込まれるリスクがあったからだ。

着の身着のまま路上生活をしていた姉妹は、下着も着けていなかったという。貧しい家庭の子女にとっては珍しいことではない。工業製品は高価なため、そもそも肌着を着るという習慣がないのだ。

プリベンションキャンプの責任者・マヤさんの娘のお下がりを着せていたが、さすがに下着はお下がりというわけにはいかない。そこでラリグラスから、下着、トップス、ボトムス、ヘアアクセサリーをプレゼントとすることにした。おそらく生まれて初めて買ってもらった洋服を、2 人はとても喜んでくれた。

現在、プリベンションキャンプのスタッフが、姉妹に読み書きを教えている。学ぶことがとても楽しいようで、学校に行きたいと希望しているそうだ。2 人の夢を叶えるべく、ヘタウダの NGO 等に働きかけているとのことだった。

初めて勉強に取り組んだ、プラクリティちゃんとエリサちゃん

遊園地のアトラクションで大絶叫！

〈ピクニック〉

■前期の卒業生にも声をかけ、4 年ぶりのピクニックを行った。卒業生 10 人、今期の生徒は本来 20 人だが、家庭の事情により 2 人が帰省中だったため 18 人。そこにスタッフとその子ども、そしてツアー参加者が加わってなかなかの大所帯に。ダンスや手品ショー、動物園見学や遊園地のアトラクションで盛り上がり、賑やかな 1 日を過ごした。

疲れ知らずの女の子たち。エンドレスで踊ります

ここにも４年ぶりにミツコとラジャ子が出没！

さようならの時。今期の生徒と一緒に記念撮影！

■教育を受けていない貧しい女性の人生は険しく、常に危険と隣り合わせにある。彼女たちの生活が少しでも向上するよう、マイティは基礎教育と職業訓練に力を入れてきた。そしてこの度、時代のニーズに合わせて、より実践的な職業訓練を行うことに。これまでヘタウダのプリベンションキャンプにおける職業訓練は、縫製技術のトレーニングに限られていたが、そこに農業トレーニングが加わることになった。

アメリカの NGO から資金提供を受け、プリベンションキャンプからカトマンズ方向に 11km 戻った場所に、この春、農地を購入したという。9 月 4 日にオープニングを行い、現金収入につながる農業を行えるようトレーニングを始める計画だ。手始めにこの 12 月から乳牛の飼育をスタートするとのことである。

アヌラダさんいわく、今後、現金収入が確実に見込める職種のトレーニングを増やしていきたいとのことだ。新たに始まる農業をはじめ、イタハリ・プリベンションキャンプで実施したテンプド

ライバーのような職種だ。そのため、これまでテーラー開業資金に限って支援してきたヘタウダ・プリベンションキャンプの職業訓練へのサポートを、今後は他の職業訓練に対しても活用したいとの申し出があった。

これを受け、これまでご協力を呼びかけてきた「テーラー開業資金プロジェクト」については 9 月末をもって終了とし、今後は各種職業訓練へのご支援をお願いさせていただくことにした。

これまで「テーラー開業資金プロジェクト」にご協力くださった皆さま、ありがとうございました！

2022 年 10 月～2023 年 9 月にご寄付くださった方々

（敬称略）

伊藤芳樹　上野祥子　上田朋子　國森佳子
宗祥子　堤田芳和　松永一夫　武藤禎

合計　205,000 円

〈お菓子詰め合わせプレゼント企画〉

■コロナ禍に見舞われ、現地訪問が中断されて以降、ラジェンドラ・サッキャさんのご家族に協力いただき継続してきたお菓子詰め合わせプレゼント。この 8 月、4 年ぶりにスタディツアーを実施し、やっと手渡しすることができた。長いブランクがあったものの、子どもたちはポカを心待ちにしてくれており、明るい笑顔を見せてくれた。

「お菓子詰め合わせプレゼント企画」にご協力くださった皆さまに、深くお礼申し上げます。

2022 年 10 月～2023 年 9 月にご寄付くださった方々

（敬称略）

上田朋子　上野祥子　宇田川江美　小野浩司
小山田基香　柿木喜久男　笠井育子　國森佳子
小松原もなみ　白戸二花　関智美　宗祥子
瀧口修薫　竹林早苗　堤田芳和　土居裕見子
豊田健治　平井英津子　松永一夫　宮野雄弘
武藤禎　本橋鮎花　森谷里美　吉田茂

合計 218,000 円

恒例のお菓子のパッキング。テレサ・アカデミーの女の子たちとおしゃべりしながら楽しく作業した

みんなから、「ずっと待ってたんですよ！」と声をかけられた

〈文房具・新品洋服プレゼント企画〉

「文房具・新品洋服プレゼント企画」にも、温かなご支援をいただいた。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

2022 年 10 月～2023 年 9 月にご寄付くださった方々

（敬称略）

〈文房具〉

武藤禎　合計 3,000 円

〈新品洋服〉

國森佳子　久保田節子　宗祥子　堤田芳和
武藤禎

合計 132,000 円

レスキュー・ファンデーション

【2022 年 10 月から 2023 年 4 月】

■コロナ禍を脱し、ますます精力的な活動を行っているレスキュー・ファンデーション（RF）。2022 年中には、500 人以上を売春宿から救出し、過去最高の成果を記録した。売春宿の経営者や人身売買犯罪に加担した者などの逮捕者は 100 人を超える。600 人余りを犯罪から守り、同じく 600 人強の女の子の社会復帰をサポートした。

■2022 年には何件もの大掛かりな救出を行った。一例をあげると、ビハール州とその周辺地域で人気の「ダンス劇団」に閉じ込められていた少女 45 人を救出したケースだ。

映画はインド最大のエンターテインメントである。女の子であれば、煌びやかな衣装をまとい、華麗に踊る女優に一度は憧れる。さすがにスクリーンに登場するのは無理だとしても、歌やダンスの仕事に携わりたいと夢見る少女は少なくない。

そうした女の子がターゲットとされる。ある貧しい 12 歳の少女は、エージェントからダンス劇団に誘われた。インドには結婚式をはじめとするさまざまな行事の際、劇団を招いて歌や踊りを披露してもらう伝統がある。劇団のダンサーもまた少女たちの憧れの職業のひとつであり、少女は胸躍らせた。両親も「名声とお金が保証される」との甘言に踊らされて娘を送り出した。

しかし、エージェントは人身売買業者だった。約束どおりダンスを披露する機会は設けられたが、パフォーマンスのステージは売春宿の真ん前。肌も露わな恰好で、酔っ払った男たちの前で踊らされた。ダンサーとは名ばかりで、クライアントを獲得するためのディスプレイとして働かされたのだ。

RF が撮影したダンス劇団の女の子

昨今、ダンス劇団の問題が取り沙汰され、意識の高いコミュニティでは、結婚式や祝賀会に劇団を招くという風習を断ち切る動きが見られつつあるという。しかしその人気はまだまだ高く、「ダンス劇団」という言葉に憧れを抱く少女は後を絶たない。多くの少女がインドのいくつかの州から、さらにネパールやバングラデシュから人身売買されているのだ。

■雇用創出とエンパワーメントを目的としたプロジェクト「EKATRA」も順調に進んでいる。リーダーとなった女の子たちが中心となり、コンピューター技術トレーニングや基礎英語クラス、アクセサリー作りやバッグ作り、縫製技術トレーニングやヨガクラスなど、さまざまなプログラムが実施されている。

ロゴ入りＴシャツを着てバッグ作りをする女の子たち

【2023 年 5 月から 9 月】

〈ブライダル・プロジェクト〉

■RF はこれまで、救出した被害者に対し、インドのカリキュラムに準じた学校教育や職業訓練等、教育の機会を提供し、社会への復帰をサポートしてきた。また、すでに学齢期を過ぎており、本人が希望すれば、よい相手との結婚のアレンジも行ってきた。ラリグラスが推進してきたブライダル・プロジェクトである。

これまでに多くのカップルが誕生し、順調に続けられてきたプロジェクトだが、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、多くの社会的な行事が中止となった。結婚式も同様、延期や中止に見舞われることになり、RF においてもお見合いの段階から自粛せざるを得なかった。辛うじて縁談がまとまったとしても、挙式に要する必要な法的許可の申請手続きが、コロナ禍であることを理由に受け付けてもらえない状況にあった。

また、コロナ禍の間に売春宿から救出された被害者の大半がマイナー(未成年)だったため、結婚ではなく教育に力を入れることが先決だった。

■こうした事情から、ブライダル・プロジェクトは 4 年近くの間、一時中断されていたが、この度、5 組の女性の縁談がまとまった。

プールさせていただいておりましたブライダル基金へのご寄付は、適宜、挙式費用に充てさせていただきます。

また、2022 年 10 月～2023 年 9 月までに、次の方々よりブライダル基金へご協力いただき、合計 203,000 円を募ることができました。この場をお借りして深謝申し上げます。　　(敬称略)

秋山洋子　伊藤芳樹　上野祥子　國森佳子
宗祥子　　堤田芳和　松永一夫　武藤禎

今回、縁談がまとまった女性のひとり。売春宿で身ごもり、RF に保護されてから出産した一人息子を連れて嫁ぐ予定。夫となる男性とは 9 歳年の差があり、スタッフからは「年が離れすぎていないか？」とのアドバイスがあったそうだが、本人は相手を気に入っているとのこと。息子を我が子として受け入れると言ってくれたことが決め手となったという

〈EKATRA プロジェクト〉

■2021 年 9 月に正式にスタートした、雇用創出とエンパワーメントを目的とした持続可能な EKATRA プロジェクト。ここで改めて詳細について記したい。

プロジェクト立ち上げのそもそものきっかけは、新型コロナウイルスの蔓延にあった。

2020 年までムンバイのシェルターの年間運営費は、オランダの NGO がサポートしていた。しかし、コロナ禍の影響による団体の資金難を理由に支援は一時停止されることになった。これを受け、ラリグラスは「コロナ緊急支援」として 150 万円を追加支援したが、その後も複数の海外ドナーが支援を停止し、RF は深刻な資金難に陥った。

シェルターに保護される 100 人前後の被害者に対し、衣食住を保証し、社会復帰に向けて基礎教育や職業訓練を行っている。だが、資金不足から思い切った経費削減が必要となった。衣食住にかかる費用を節約するにも限りがあるため、職業訓練の講師の減員を行うことにした。だからといって、職業訓練を行わないわけにはいかない。そこで正式に立ち上げられたのが、EKATRA プロジェクトである。

EKATRA のメンバーたち。自主的に学んでいる

■布石は 2020 年 3 月のロックダウンにあった。移動を禁止されたため、職業訓練や基礎教育を担当する講師はシェルターに通うことができない。そこで、スキルの高い数人の女の子にトレーナー役を担ってもらうことにしたのである。教える側も教わる側も非常に熱心に訓練に取り組み、予想以上の成果を見せたため、正式なプロジェクトとして継続することにしたのである。

大まかな仕組みは次のとおりだ。

①スキルが高く、リーダーの資質をもつ女の子をトレーニングし､｢リーダー｣または｢トレーナー｣として育成する。
②「リーダー」や「トレーナー」が、シェルターの女の子たちを指導する。
③｢リーダー｣や｢トレーナー｣に給与を支払う。人件費を抑えられるうえに、ロックダウンのような非常時にあってもトレーニングが継続できるという利点がある。

プロジェクトの開始当初、7 人のトレーナーが選抜された。まずリーダー研修を行い、アクセサリー作り、縫製技術、コンピュータートレーニング、基礎英語、美容技術、バッグ作り、ズンバ、ヨガなどのクラスで少しずつ指導者としての活動を始めていったのである。

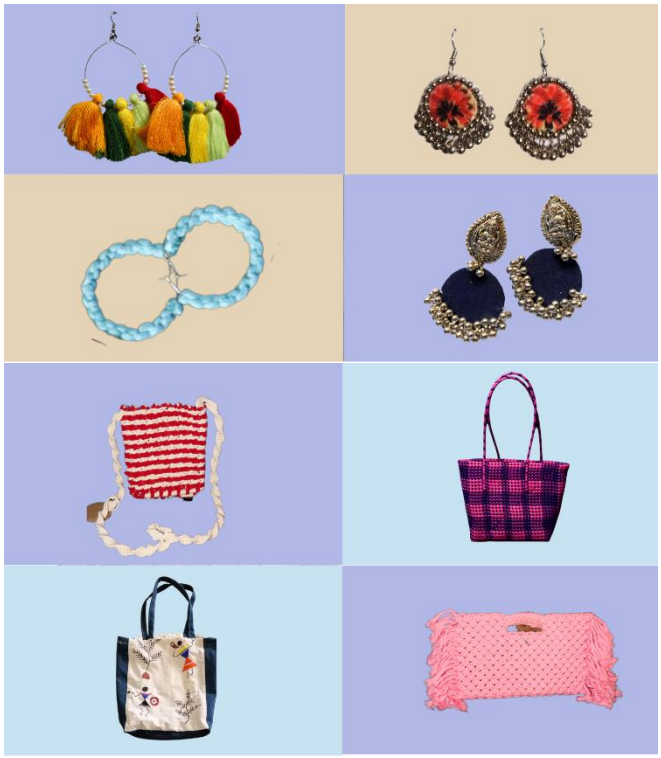
■EKATRA プロジェクトは順調に進められ「リーダー」や「トレーナー」も増えていった。現在、ムンバイ本部、ボイサル、デリー、プーネの計 4 か所のシェルターでプロジェクトが実施されている。

ヘッドトレーナー1 人とアシスタントトレーナー5 人からなるチームが、各シェルターに 4 チームずつ置かれている。この 4 チームをスーパーバイザー1 人が取りまとめる。つまり 4 つのシェルターで、スーパーバイザー1 人、リーダーまたはトレーナー4 人、アシスタントトレーナー20 人が協力し、10 種類のクラスが運営されている。

デリーシェルターの EKATRA メンバー

■今回ボイサルのシェルターを訪問した際、初めて直接プロジェクトの様子を見学することができたのだが､その成果は実にすばらしいものだった。女の子たちは、EKATRA プロジェクトで学んだダンスやヨガ、英語トレーニングなどの成果を発表してくれた。毎年、8 月 15 日の独立記念日に、地域の役人や名士、警察幹部、協力関係にある NGO 関係者を招いて祝賀会を催す。その際にダンスや演劇などを披露するのが恒例となっており、これらの演目を再現してくれたのである。まず驚いたのは、MC を女の子が務めたことである。しかも、流ちょうな英語で堂々たるスピーチをしたのだ。一定期間、劣悪な環境下で性的搾取を受けていたとは想像すらできないほど誇らしげな立ち居振る舞いだった。

デリーでもコンピュータートレーニングが行われている



EKATRA プロジェクトで制作された作品は、現地のマーケットで販売されるレベルのものも。ネット通販の計画もあるとのことだ

コロナ禍前、最後に訪問した 2019 年にも同様の演目を披露してくれたが､MC はスタッフが務めていた。その大役を含め、プログラムの構成から

演劇のシナリオ、ダンスの振り付けや衣装に至るまで、すべて EKATRA のメンバーが担ったという。各出し物のクオリティーもかつてのものより格段にレベルアップしており、EKATRA プロジェクトの着実な成果にとても感激した。

2022 年 10 月～2023 年 9 月までに、次の方々より EKATRA プロジェクトへご協力いただき、合計 69,000 円を募ることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。　　（敬称略）

國森佳子　西部徹　松永一夫　武藤禎

ヨガと体操を披露

ダンス・プログラム

美しい声でギータ(歌)を披露する女の子

〈ブライダル･プロジェクトから EKATRA プロジェクトへの移行〉

■これまで継続してきたブライダル・プロジェクト。100 組近くのカップルが誕生し、多くの女性が新たな家族とともに人生を立て直すことができた。これもひとえに本プロジェクトにご協力くださった方々のおかげに他ならない。この場を借りて、改めてお礼申し上げる。

たくさんの女性たちに幸福をもたらしたブライダル・プロジェクトだが、今年度をもって本プロジェクトを終了することになった。

前述のとおり、昨今、売春宿から救出される被害者の大半がマイナー(未成年)であるため、教育の機会の提供を優先すべきと考えるからだ。また、ここ数年、結婚を希望する女の子が減っていることも背景のひとつである。「大学まで勉強していい仕事に就きたい」という声が大半を占めるというのだ。

RF のスタッフいわく、EKATRA プロジェクトの影響が大きいという。EKATRA のクラスで学んだ英語や IT 技術をもとに、条件のいい職場に就職した先輩たちがロールモデルとなり、自分も後に続きたいと考えるようになったという。結婚よりキャリアを求めるようになってきたというのだ。

こうした女の子たちの意識の変化に伴い、ラリグラスは「ブライダル・プロジェクト」を終了し、「EKATRA プロジェクト」へのご協力を呼びかけさせていただくことにした。

もちろん、本人が希望すれば結婚のアレンジも継続して行う予定だ。例えば、この度結婚が決まった 5 人のうち 2 人はシングルマザーである。子どもを育てながら自立を図るのは容易ではなく、幼いうちに父親を迎えてあげたいという思いもあるため、結婚を希望するのだ。

ブライダル･プロジェクトとしては終了するが、今後、縁談がまとまった際に要請があれば、可能な範囲で支援を行いたいと考えている。

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

〈NDWS の概要〉

ネパール障がい者女性協会（Nepal Disabled Women Society：以下 NDWS）は、1994 年、障がいをもつ女性たちが中心となって立ち上げた組織で、カトマンズ盆地内にあるラリトプール市ゴダワリ地域で活動を行っている。地域の障がい者・児のために精力的に活動している。NDWS の主な活動は以下の 3 つに大きく分けられる。

1　障がい児・その保護者に対するセミナーや研修会の実施
2　CBR プログラム（地域中心型リハビリテーション・プログラム）の実施
3　デイケアセンターの運営

〈デイケアセンターでの活動〉

デイケアセンターは通常通り運営している。これまでデイケアセンターに長い間通っており、父親が NDWS のスタッフも務めていたハシーナだが、この度父親がデイケアセンターを退職することになり、通所を断念することとなった。母親もデイケアセンターで子どもたちに学習を教えていたが、退職となり、NDWS は新しくデイケアセンターに通うサリタの姉を教員として雇用することにした。ハシーナは麻痺があるため、関節を動かしたりする理学療法が必要となるが、現在は在宅でケアを受けているという。

2023 年 9 月には、大学生のボランティアグループが NDWS を訪問し、子どもたちに知育玩具やクレヨン等の文房具を贈呈してくれた。そのほかにも、理事メンバーの知り合いが、教材や子どもたちへの昼食を提供してくれた。

また、ゴダワリ市から助成を受け、デイケアセンターの子どもたちに制服と文房具を提供した。授与式にはゴダワリ市の職員も同席したそうで、保護者からは、「やっと政府もこの子たち（障がい児たち）に目を向けてくれるようになった」という声があった。

2023 年 10 月には、毎年恒例の寺院でのピクニックを開催した。いつもは自分たちで食材を持ち込んで作るのだが、最近は寺院周辺のピクニック環境が充実しており、カフェやレストランが増えてきているため、奮発してカフェで朝食。子どもたち以上に保護者が喜んでいたようだ。お昼は場所を借りて自分たちで料理したものの、普段は食べる機会の少ないお肉やお魚の料理が出てきて、子どもたちはとても満足したようだ。

大学生のボランティアグループの訪問

新しい制服とカバンをもらってにっこり

〈障がい啓発活動〉

ゴダワリ市の委託を受け、同市の６つの村を対象に、障がい啓発活動を実施した。障がい当事者のほか、両親、ヘルスワーカー、学校の教員、村役場の職員等が参加した。ゴダワリ市の予算で障がい当事者に車いすや松葉づえ、歩行器等も寄付した。特にヘルスワーカーは担当地域の家庭訪問をし、健康状態や栄養状態の確認をする役割を担っているため、障がいの早期発見や定期的なケアのためにも障がいに関する知識は重要となる。寄付した補助器具の使用方法を、当事者と家族だけでなく、ヘルスワーカーにも伝え、家庭訪問時にフォローアップしてくれるように依頼しているという。

補助器具の贈呈。赤と水色のサリーを着ている女性たちがヘルスワーカーで、草の根レベルで住民の健康を支える重要な役割を担っている

〈性暴力と心理カウンセリングの研修〉

同じくゴダワリ市が実施する性暴力と心理カウンセリングの研修に、NDWS の理事メンバーが参加した。理事メンバーは全員女性であり、その多くが障がい当事者である。参加者は、配偶者からの家庭内暴力やレイプ等の性犯罪についての啓発や、被害者へのカウンセリング方法の研修を受けたという。NDWS からも障がいのある女性について講義を行った。

研修の様子

〈テラスの建設〉

NDWS の事務所とデイケアセンターの建物は２階建てであるが、現在３階部分を増築中である。NDWS のある地域は山間部で、遠方から山を下りて相談に来くる家族も多いことから、宿泊施設を作ることにした。また、家族の負担を軽減するために、障がい児・者の一時預かりサービスも検討しているようだが、ネパールの状況を考えると、預けたまま迎えに来ない家族が出てくる可能性は十分にあるため、一時預かりサービスについては慎重になるように NDWS のスタッフに伝えた。

着々と進む宿泊施設の増築

イベント・その他の活動（2022年10月～2023年9月）

〈印刷・封入作業〉

2022 年 11 月 27 日（日）、飯田橋の東京ボランティア・市民活動センターにて、ラリグラス・ジャパン 2022 リポートの封入作業を行った。また、2023 年 7 月 2 日(日)には、同じく東京ボランティア・市民活動センターにてニュースレターの封入作業を行った。

ボランティアの皆さんがてきぱきと作業してくださり、無事に発送することができた。

〈委託販売〉

新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類感染症へと見直され、ようやく多くのイベントが再開している。しかしながら今年 10 月に開催されたグローバルフェスタ JAPAN2023 には抽選で漏れてしまい、当会の参加はかなわなかった。

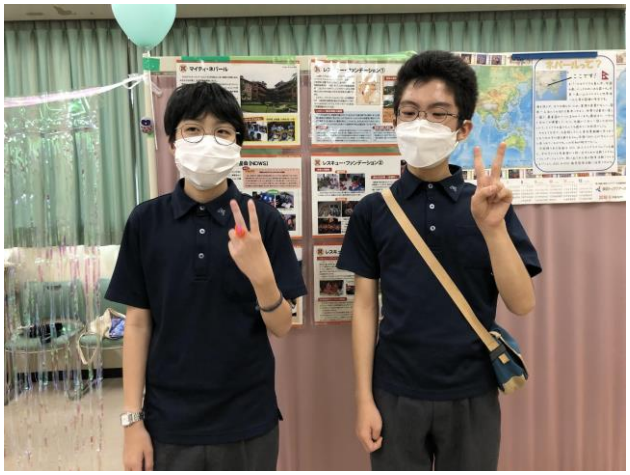
そのような中、2022 年 10 月から 2023 年 9 月にかけて、全国各地にお住まいの皆さまが各イベントにてマイティ・ネパールのホスピスやレスキュー・ファンデーションで作られた商品などを販売してくださったので、ご紹介したい。

以前スタディツアーに参加された春日恵さんの英語教室の生徒である、高校三年生の永井花恋さんは、2022 年 10 月に行われた長野県長野商業高等学校の長商デパート、長野県立大学の文化祭にて活動にご協力いただいた。ネパールの現状を伝え、募金の呼びかけやネパール雑貨の販売をしてくださった。長野県立大学の文化祭には自ら交渉して出展されたとのことだ。

武藤禎さんは 2023 年 1 月に行われたカトリック中原教会でのミニバザーで、ビーズ製品やリュックサックなどを販売してくださった。

鈴木明子さんは 2022 年 10 月、2023 年 9 月、共栄学園中学・高等学校にて行われた文化祭・共栄祭にて、ボランティアの皆さまとともに委託販売にご協力いただいた。2022 年はコロナ禍で商品が入荷できず、少ない在庫の中から販売していただいたが、2023 年は久しぶりに新しい商品を販売していただくことができた。現在若者の間で韓国のビーズアクセサリーが人気ということで、例年よりもビーズ製品が注目されたという。特にブレスレットが好評であったとのこと。「ホスピスの皆さんが一生懸命作ったビーズ製品が評価されて売れたことが一番嬉しかった」とコメントを寄せてくださった。

皆さまのご支援、ご協力に感謝申し上げたい。



共栄学園のボランティアの皆さん

ラリグラス・ジャパンでは、引き続きマイティ・ネパールのホスピスで暮らす女性たちやレスキュー・ファンデーションの女性たちが作ったフェアトレード商品およびネパール雑貨を販売していただける方を募集している。コロナ禍以前のように徐々に販売の機会も増えつつあり、もし販売にご協力くださるという方がいらっしゃれば、ぜひご連絡いただきたい。

２０２２年度　決算・予算

２０２２年度　活動計算書（報告書）

2022 年 04 月 01 日～2023 年 03 月 31 日(配賦)

特定非営利活動法人　ラリグラス･ジャパン　特定非営利活動に係る事業の会計 (円)

科目	金額		
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費			
正会員受取会費	320,000		
賛助会員受取会費 －里親賛助会費(教育)	318,000		
－里親賛助会費(教育＆生活)	576,000		
－一般賛助会費	350,000		
受取会費計		1,564,000	
受取寄付金			
受取寄付金 －一般	3,109,154		
－ブライダル基金	212,000		
－子供服	139,000		
－お菓子	209,000		
－職業訓練	176,000		
－テーラー開業支援	216,000		
－コロナ支援	68,000		
－EKATRA	65,000		
受取寄付金計		4,194,154	
事業収益			
普及･啓発事業収益 －委託販売	36,650		
事業収益計		36,650	
その他収益			
受取利息	77		
為替差損益	119,521		
その他収益計		119,598	
経常収益合計			5,914,402
(2)経常費用			
事業費			
■[部門なし]			
人件費			
給料手当	0		
役員報酬	0		
退職給付費用	0		
福利厚生委	0		
マイティ･ネパール支援事業費			
マイティ本部運営費	740,000		
ﾎｽﾋﾟｽ運営費	309,000		
ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ支援費	200,000		
お菓子	70,160		
職業訓練	260,000		
ヘタウダ運営費	72,000		
旅費交通費	12,000		
送金手数料	20,000		
マイティ･ネパール支援事業費計		1,683,160	

ネパール障がい者女性協会支援事業費			
NDWS運営費	1,500,000		
送金手数料	20,000		
ネパール障がい者女性協会支援事業費計		1,520,000	
ﾚｽｷｭｰﾌｧﾝﾃﾞｰｼｮﾝ支援事業費			
RF運営費	2,800,000		
ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ支援費	200,000		
EKATRA	500,000		
送金手数料	20,000		
ﾚｽｷｭｰﾌｧﾝﾃﾞｰｼｮﾝ支援事業費計		3,520,000	
普及・啓発活動事業費			
委託販売	0		
通信運搬費	9,690		
普及・啓発活動事業費計		9,690	
情報収集・情報提供事業費			
通信運搬費	46,472		
旅費交通費	8,030		
ｳｴﾌﾞｻｲﾄ運営	15,180		
事務用品費	220		
印刷製本費	43,129		
送金手数料	495		
情報収集・情報提供事業費計		113,526	
現地調査			
ﾎｽﾋﾟｽ運営費	9,000		
レクリエーション提供費	32,200		
食費	4,000		
通訳代	150,000		
調査活動費	150,000		
通信運搬費	10,724		
会議費	12,740		
宿泊費	8,950		
旅費交通費	206,307		
雑費	6,000		
現地調査計		589,921	
■[部門なし]計		7,436,297	
事業費計		7,436,297	
管理費			
通信運搬費	65,182		
消耗品費	2,900		
事務用品費	7,796		
N-Books会計ソフト使用料	11,000		
支払手数料	110		
送金手数料	1,705		
管理費計		88,693	
経常費用合計			7,524,990
当期経常増減額			-1,610,588

2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益合計			0
(2)経常外費用			
経常外費用合計			0
当期経常外増減額			0
税引前当期正味財産増減額			-1,610,588
当期正味財産増減額			-1,610,588
正味財産期首残高			14,327,636
正味財産期末残高			12,717,048

【招聘事業・新刊案内】

～招聘事業の実施が決定しました～

2011 年 5 月、レスキュー・ファンデーション代表トリベニ・アチャルヤさん、内偵員サントシュ・セダイさん、スタディツアーのアテンドを担っていただいているラジェンドラ・サッキャさんをお招きし、東京・横浜・四国にて講演会を行いました。

あれから十二支が 1 回めぐる年数が経った今、久しぶりに招聘事業を行うことを決定しました。今回は、レスキュー・ファンデーション代表トリベニ・アチャルヤさん、売春宿から救出された後、手厚いリハビリプログラムを経て、現在、EKATRA プロジェクトのリーダーとして活躍する女性、そして長年にわたって当会の活動に協力してくれているラジェンドラ・サッキャさんらをお招きします。

開催時期は 2024 年 5 月または 6 月を予定しています。

なお、招聘にかかる費用につきましては、クラウドファンディングを通じて資金調達を図る計画です。詳細が決まりましたら、改めてご案内いたしますので、何卒ご協力いただけますようお願いいたします。

～代表・長谷川の新刊が出版されます～

中学生から読める国際理解の入門書として、2024 年 1 月下旬に合同出版より、『わたしは 13 歳　今日、売られる。――アジア最貧国ネパール　性産業の闇から助けを求める少女たち』という本が刊行されます。

国際社会の一員として日本の子どもたちに女性の人権について学んでもらえれば……との願いを込めて記した一書です。

コロナ禍以降の現地の最新情報についても紹介しておりますので、ご一読いただけましたら幸いです。

書式第16号(法第28条関係)

2022年度　計算書類の注記

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン

1.　重要な会計方針

計算書類の作成は、N-Books(ネット帳簿)　によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法　　棚卸資産無し

(2) 固定資産の減価償却の方法　　固定資産無し

(3) 引当金の計上基準　　退職給付引当金　無し

(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理　　無し

(5) 消費税等の会計処理　　無し

2.　事業別損益の状況　　(単位:円)

科目	国内事業	海外支援事業	事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ 経常収益						
1. 受取会費	1,564,000	0		1,564,000	0	1,564,000
2. 受取寄附金	4,194,154	0		4,194,154	0	4,194,154
3. 受取助成金等	0	0		0	0	0
4. 事業収益	36,650	0		36,650	0	36,650
5. その他収益	119,598	0		119,598	0	119,598
経常収益計	5,914,402	0		5,914,402		5,914,402
Ⅱ 経常費用						
(1) 人件費	0	0		0	0	0
給料手当	0	0		0	0	0
退職給付費用	0	0		0	0	0
福利厚生費	0	0		0	0	0
・・・・・・・・・・						
人件費計	0	0		0	0	0
(2) その他経費						
会議費	0	0		0	0	0
旅費交通費	8,030	0		8,030	0	8,030
通信運搬費	56,162	0		56,162	65,182	121,344
印刷製本費	43,129	0		43,129	0	43,129
スタディツアー	0	0		0	0	0
現地調査	0	589,921		589,921	0	589,921
イベント出展費	0	0		0	0	0
書籍購入	0	0		0	0	0
ウエブサイト	15,180	0		15,180	11,000	26,180
消耗品	0	0		0	2,900	2,900
事務用品	220	0		220	7,796	8,016
送金手数料	495	60,000		60,495	1,705	62,200
支払手数料					110	110
為替差益	0	0		0	0	0
施設等評価費用	0	0		0	0	0
減価償却費	0	0		0	0	0
寄付金支出	0	6,663,160		6,663,160	0	6,663,160
その他	0	0		0	0	0
その他経費計	123,216	7,313,081		7,436,297	88,693	7,524,990
経常費用計	123,216	7,313,081		7,436,297	88,693	7,524,990
当期経常増減額						-1,610,588
過年度損益修正益						
過年度損益修正損						
経常外増減額						0

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

内容	金額	算定方法

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
当法人の正味財産は14,327,636円ですが、そのうち1,121,000円は、下記のように使途が特定されています。
したがって使途が制約されていない正味財産は13,206,636円です。

（単位：円）

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ブライダル基金	−1,083,447	212,000	200,000	−1,071,447	
子供服	87,742	139,000	0	226,742	
お菓子	109,449	209,000	70,160	248,289	
職業訓練	396,800	176,000	260,000	312,800	
文房具	60,000	0	0	60,000	
コロナ支援	−1,534,000	68,000	0	−1,466,000	
テーラー開業支援	−1,295,200	216,000	0	−1,079,200	
EKATRA	65,000	65,000	500,000	−370,000	
合計	−3,193,656	1,085,000	1,030,160	−3,138,816	

5. 固定資産の増減内訳

（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産	0	0	0	0	0
車両運搬具					
什器備品					
・・・・・・・・・・					
無形固定資産	0	0	0	0	0
・・・・・・・・・・					
投資その他の資産	0	0	0	0	0
敷金					
・・・・・・・・・・					
合計	0	0	0	0	0

6. 借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済
	0	0	0
合計	0	0	0

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

（単位：円）

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
（活動計算書）	0	0
活動計算書計	0	0
（貸借対照表）	0	0
貸借対照表計	0	0

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の按分方法
　国内事業に係わる管理費用は国内事業に計上。それ以外は管理費に計上
・ その他の事業に係る資産の状況
　その他の事業はありません

2022年度　特定非営利活動に係る事業の会計　財産目録

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人　ラリグラス･ジャパン

（円）

科　　目	摘　　要	金　　額		
資産の部				
流動資産				
現金		158,807		
現金(外貨)		3,117,035		
普通預金		9,441,206		
--三菱東京UFJ銀行		3,009,104		
--ゆうちょ銀行		2,302,016		
--三菱東京UFJ銀行(NPO法人用)		4,130,086		
流動資産合計			12,717,048	
固定資産				
固定資産合計			0	
資産合計				12,717,048
負債の部				
流動負債				
流動負債合計			0	
固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				0

2022年度　　貸借対照表　（2023年3月31日現在）

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン
特定非営利活動に係る事業の会計

（円）

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	158,807	流動負債合計	0
現金(外貨)	3,117,035	固定負債	
普通預金	9,441,206	固定負債合計	0
流動資産合計	12,717,048	負債合計	0
固定資産		正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産期首残高	14,327,636
		当期正味財産増減額	-1,610,588
		正味財産合計	12,717,048
資産合計	12,717,048	負債及び正味財産合計	12,717,048

監査報告書

監　査　報　告　書

令和 5 年 5 月 20 日

特定非営利活動法人
ラリグラス・ジャパン
代表　長谷川 まり子 殿

会計監査　門垣 裕子 ㊞

令和４年４月１日から令和５年３月３１日までの貸借対照表、収支計算書、および付属する書類を監査した結果、正確であると認めます。

以上

２０２３年度　事業計画

2023 年 6 月 4 日

１．海外事業活動

（１）マイティ・ネパール

・テーラー開業支援

・フェアトレード・ビーズ製品の購入と技術指導

・エンパワーメント支援

・ホスピス、ヘタウダ施設運営支援

（２）レスキュー・ファンデーション

・シェルター、リカバリー・ケア・センター運営支援

・ブライダル支援

（３）NDWS

・デイケアセンター運営支援

（４）スタディツアー実施

・第 40 回催行

（５）商品仕入れ

２．国内活動

（１）広報活動

・ホームページ運営

・報告書・パンフレット印刷

・SNS サイト運営

・書籍販売

・Facebook 広報の活用

（２）イベントの参加とフェアトレード商品の販売

・グローバルフェスタ参加、ほか

（３）委託販売

（４）財政基盤の強化

・会員・里親会員の継続会員のフォローと新規会員の拡大推進

・寄付・募金活動の実施

・助成金申請の積極推進

（５）プロジェクト活動

・ビーズ製品新デザインの検討

・現地からの報告書などの文書翻訳（英文→和文）や（和文→英文）など

（６）勉強会・講演会の開催

・ラリグラス・ジャパンの活動や現地 NGO の現状、ネパール・インドの社会状況などについて理解してもらうことを目的とし、勉強会・講演会を開催。ZOOM を活用

以上

会員・寄付者リスト

（敬称略）

【会員】

2022 年 10 月から 2023 年 9 月の間に会員（継続も含む）になってくださった皆さまのお名前

≪正会員≫
秋山佳子　石川重美　上原翔子　門垣裕子　亀尾麻彩子　渋谷真理子　須賀香奈
高橋国和　高橋奈美恵　高柳ユミ　長江さをり　中嶋野香　長谷川まり子　林亜紀子　武藤禎

≪里親賛助会員≫
阿部真里子　石原正行　伊藤芳樹　宇田川江美　大河内朱里　大田多恵　奥井眞佐子　小野浩司
笠原礼子　木村良枝　工藤節子　國森佳子　久保田明人　櫻井るり香　佐藤圭都　鈴木樹代子
宗祥子　高橋多美子　瀧口修薫　土居裕見子　外岡ラズムシャズ　西部徹　西堀喜則
野口みどり　林和夫　平井英津子　平野善之　松永一夫　丸山竹士郎　宮田泰司　元田智子
森谷里美

≪一般賛助会員≫
秋山洋子　生田卍　伊東浩一　稲葉資郎　今村久美子　上野祥子　上原準　江口敏
大黒やより　大野国貢　岡部陵佳　春日恵　加藤光子　川西久美子　木藤陽子　坂本淳子
下田伸子　鈴木明子　野口恵里花　竹内淳子　千葉幸子　中野陽子　名田文子　西野章男
橋本篤　長谷川隆三　藤城裕子　松本聡子　松岡静枝　水﨑朋子　三谷理　三原公子
村上隆男　吉田茂　渡辺敦子

≪学生会員≫
小松原もなみ　丸山茜

【寄付をしてくださった皆さま】

（2022 年 10 月～2023 年 9 月）

秋山洋子　浅野芳子　伊東浩一　伊藤芳樹　稲葉資郎　今村久美子　イワタセツ　上田朋子
上野祥子　上原翔子　宇田川江美　江口敏　近江京子　大河内朱理　大野国貢　岡部陵佳
小野浩司　小野寺一彦　小山田基香　柿木喜久男　笠井育子　春日恵　加藤光子　神谷学
川西久美子　木藤陽子　國森佳子　久保田明人　久保田節子　桑田真由美　古賀ミチ　小手川弘子
小松原もなみ　齊藤幸一　坂本淳子　坂谷内勝明　佐藤圭都　渋谷真理子（パールピーアール）
下田伸子　白戸二花　鈴木明子　杉山弘子　関智美　宗祥子　瀧口修薫　竹内充
竹林早苗　田邊暢子　千葉幸子　堤田芳和　手島綾　土居裕見子　豊田健治　永井花恋
永谷恭子　西部徹　西堀喜則　野口恵里花　橋元尚美　平野善之　平井英津子　福原匡伸
別府浩一郎　俣野美代子　松永一夫　松山眞理　丸山竹士郎　三原公子　宮野雄弘　武藤禎
元田智子　本橋鮎花　森谷里美　山口泰正　吉田茂　匿名　共栄学園ボランティア部
大一電工（株）　長野長商高等学校　長野県立大学　（有）フットフィール

【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】

（2022 年 10 月～2023 年 9 月）

石川重美　大野国貢　クシャ―ル・サッキャ　久保田明人　中嶋野香　長谷川まり子
藤城裕子　武藤禎

【活動にご協力くださった団体・皆さま】

（2022 年 10 月～2023 年 9 月）

株式会社風の旅行社　株式会社光文社　倉田春香（NPO 法人 Bonds of Heart）　佐藤圭司
大一電工（株）　手島綾

【理事・役員】

理事

長谷川まり子	代表
秋山佳子	渉外（info メール）担当
石川重美	会計・会員名簿・ホームページ担当
上原翔子	NDWS・各種補助金申請担当
亀尾麻彩子	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
須賀香奈	NDWS 担当・里親会員・年間スケジュール管理担当
高柳ユミ	翻訳チーム・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
中嶋野香	会計・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
林亜紀子	里親会員・翻訳チーム・各種補助金申請・NDWS 担当

監事　門垣裕子　武藤禎

会計監査　門垣裕子

顧問　間部俊明（弁護士）　朏博一（税理士）

評議員　高橋国和　新倉元彦　三谷理

スタディツアー感想文

◆参加者◆	大野国貢	東京	社会人
	丸山茜	長崎	学生
◆同行スタッフ◆	長谷川まり子	ラリグラス・ジャパン　代表	

スタディツアーレポート

大野国 貢

8 月 21 日（月）

前日 20 日（日）の夜に空港でチェックイン。今回のツアー参加者は協力隊 OG の丸山茜さん（以下、まるちゃん）と私の 2 人のみ。まるちゃんは先行してネパールに入っており、予定の便(TG661)に搭乗するのは私とまり子さんのみ。ラリグラス事務局から託された新作ビーズ製品資料を受け取り一人で機内へ。座席についてしばらくすると、直前まで仕事で忙しかったまり子さんが搭乗し、近くの席に着くのが見えた。バンコクを経てカトマンズの空港に着いたところで、まるちゃんと無事に落ち合うことができ、マイティ本部へ。本部に着いたら、いつも通り寮生の女子たちが協力してお菓子の袋詰め。小雨の中、行列する子供たちへお菓子を配って本日のミッション終了。

8 月 22 日（火）

朝食を食べた後 NDWS に向かう。NDWS のデイケアセンターで報告を聞いた後、今は亡きマヘンドラの家を訪問。この日家にいたのはマヘンドラのお父さん一人。お悔やみの代わりに、来世でのマヘンドラの人生が良いものであることを願っている旨を伝える。それにしても自分より若い人が自分より先に逝ってしまうというのは哀しいなぁ・・・

この後、パタンにあるラジャさんの家でおいしいネワール料理を頂いてからホスピスへ移動。4 年ぶりに会うホスピスのメンバーは、みんなしっかり 4 年分の歳を取っていた。久しぶりに会ったラダは、しっかりこちらを見て「ナマステ」と挨拶してくれた！　コミュ力向上しています。挨拶の後は、4 年ぶりのビーズ製品検品と、新作のオーダー。ビーズ作成の担い手も減ってしまい、また、日本側の販売チャネルも減ってしまったことから、かつてと比べると商品の数はだいぶ減ってしまったのが淋しい。

8 月 23 日（水）

この日はタライ平原にある都市ヘタウダへの移動日。ヘタウダへ向かう道はこの 4 年間でずいぶんと整備が進み、これまでは 6 時間コースだったものが 4 時間強まで時間短縮。また、これまでは車の天井に手を突っ張っていないと頭をぶつけそうになるような所があったのに、そんなことをしなくても大丈夫な快適な道になっていた。ヘタウダのプリベンション・キャンプには、今年の研修生たちが勢揃い。研修生とは別に、幼い姉妹とレイプされて妊娠してしまった少女とが保護されていた。少女の方は学校教育も受けていなかったようでネパール語が通じない。どのように声をかければ良いのか・・・

ヘタウダのホテルにチェックインした後、キャンプの子やホスピスメンバー向けのアクセサリーを購入するために街中へ。いつもの店で買い物をしたついでに、保護されていた幼い姉妹向けに子供服を買う。ちょっと高めの店だったので、支払い段階で躊躇したものの購入決定。品物を持って

改めてプリベンション・キャンプへ。お土産を配るとともに姉妹には服をプレゼント。ジャストサイズ！

8 月 24 日（木）

今年もこれまでと同じヘタウダ近郊にあるリゾート公園でのピクニック。ツアーでは定番だが、キャンプの女の子たちには何の予告もないままミツコ（ミツコを知らない方は過去のスタディツアーレポートをご参照ください）の登場！　高速観覧車とバイキング船はいつも通り。大勢の女の子がキャーキャー悲鳴を上げるものだから、オペレーターのおっさんは大喜びで運転にも力が入る。結果、やはり乗り物酔いできつそうな子がちらほら。

散策の後は例によって手品ショウ。事前に聞いたところでは手品を一度も見たことがない子ばかりとのこと。それを聞いて気合いの入るミツコ！子供たちの目の前で繰り広げられるのは手品と言うより（彼らにとっては）魔術そのもの。人間業とは思えない不思議な現象に皆呆然。そう、ミツコは今、人にはない不思議な超能力を持ったヒーローのよう。ヒーローガールミツコと呼んでね！

手品ショウと食事とが終われば、音楽がかかり例によってダンスダンス。村の普段の生活ではあり得ない「ハレ」の日ですから、みんなはじけまくり。そうした姿を今年はインスタントカメラのチェキで撮影。かなりの数の子供たちがスマホを持っていたが、できるだけスマホを持っていない子が写るようにカメラを構え、その場でプリントして子供たちに配る。保護されていた子にも渡すことができ、少しでも楽しい思い出になってくれることを願う。

8 月 25 日（金）

今年はツアー日程が少ないことから、例年訪問していたインド国境の方には行かず、ヘタウダを後にしてカトマンズへ移動。帰りの道も快適で 4 時間強でカトマンズへ到着。カトマンズ到着後はホテルに一度戻った後、ラリグラスの商品仕入れのお手伝いとお土産購入タイム。

この日の夜は新企画として、マイティのアヌラダさんと行くカトマンズの「夜の街」夜回りパトロール。早めの夕食をとった後、マイティ本部から車に乗って観光客の知らない「夜のカトマンズ」を見に行く。最初に訪れたところは、ホテルとマイティ本部の行き来にいつも通っている道。昼間通っているときにはまったく気付かないのだが、夜になると間口の狭い茶店風の店に LED イルミネーションが灯いている。確かに客待ちらしい若い女性の姿も見える。カーテンで仕切られた店の奥にベッドがあるとのこと。同じような作りの店が何軒もある。特徴はどの店も入り口上部に LED イルミネーションがあることか。昼の顔と夜の顔がまったく違い、こうして案内されるまで、この辺の実情を知ることはできなかった。

続いて廻ったのはカトマンズを一周する外観道路（リングロード）の一角。以前はリングロードはカトマンズ市街地の最果てで、そこより外はのどかな田園風景だったのだが、王政廃止後の内戦時に地方からカトマンズに移り住む人が増えたことから、今では市街地がリングロードの外側に拡大しており、まさに「郊外バイパス沿いの商業集積地」の様相。リングロード脇の歩道とも緑地ともつかない辺りに、いわゆる「立ちんぼ」が客待ちをしている。中には女性ではなくオカマも混じっているらしい。また、売春を主目的とした「クラブ」店舗も多数立地。派手な LED イルミネーションの灯いた店があちこちにある。

リングロードを後にして、夜回りは再び旧来の街中へ移動。こちらにも「接待を伴う飲食店」風の店やら、連れ込み宿とみられる「Guest House」の看板が多数。ここは逆さクラゲだらけの渋谷道玄坂裏手か？（昭和なネタですみません）

夜回りを通して感じたのは、コロナ下であったにもかかわらず、カトマンズは経済的にそれなりに潤っていて、新たな形態の売春が増えた（小金で潤った連中が客として増えた）のではないかと言うこと。観光客がいない間、道路整備等のインフラ投資が進んだ様子が見受けられ、それで潤った人が多かったのかもしれない。

8 月 26 日（土）

休日の土曜日はいつも通りのピクニック！　ピクニックの会場は 2019 年と同じバクタプール近郊のリゾート。もちろんヒーローガールミツコも登場よ！　しかしながらミツコ、手品の新ネタをとちってしまったのでした。真のヒーローになるにはトレーニングあるのみ。これから一年、手品新ネタの千本ノックの毎日だわ。

ピクニックが終わりホテルに戻った後、夕食は軽く済ませて昨夜の夜回りで見かけたクラブ「バビロン」見学ツアーを実施。リングロードでタクシーを降りると、昨夜同様立ちんぼがちらほら。

女装して化粧の濃いオカマを間近に見て思ったことはもちろん「ミツコの方がずっときれいよ！」。

バビロン入り口では、パリッとした制服のスーツを着込んだスタッフ（男女）が案内に立っている。しかしどう見てもスーツが似合っていない。おそらく仕事内容とスーツの堅さとのミスマッチであろう。男性スタッフからは、かすかに暴力臭も漂ってきている感じ。店に入るとそこはディスコスペースを備えた「接待のある飲食店」というおもむき。それにしても音楽が騒がしい。我々はラジャさんと私の男性二人に、まり子さんとまるちゃんの女性二人の組み合わせ。どう見ても「買い」に来た客でないことが明白。それでも「接待」の女性が席に着き、ドリンクをオーダー。ディスコスペースではインド人とおぼしき男たちが店の女性とダンスしている。しばらく店で楽しんだ後は、テイクアウトするのでしょう。それにしてもうるさい。パチンコ屋のようなうるささで、正気の人間には長時間いられる場所ではないわ。店の女性がもう二人来て、後から来た方が最初の子よりすれた感じの先輩の雰囲気。少し話をしてみるが、年齢や住んでいるところ等、事実を語っているか怪しいところ。しかしまぁ、彼女らは少なくとも、身柄を拘束されての強制売春ではないと言うことか。どのようないきさつでここで働くようになったのかは分からないけれど、人身売買でないだけましか。長時間いてもしかたがないので、ある程度滞在したところで店を後にする。

8 月 27 日（日）

日曜日はネパールでは平日（土曜日が日本の日曜に相当し、日曜は週明けの平日となる）と言うことで、マイティ本部とテレサ・アカデミーを訪問。マイティ本部でアヌラダさんから聞いた話で、インドにおける人身売買被害者救出に、インドのDX（デジタルトランスフォーメーション）が悪い影響を及ぼしていると言うことに絶句！　コロナ下の日本では行政手続きの電子化が遅れていたがために、給付金の支給に手間がかかり、「インドの個人番号制度の方が進んでいる」などと言われたこともあったが、インドの制度に大きな問題有りと言うことでした。日本であれば戸籍制度や住民登録制度がしっかりしていて、手間はかかるが本人確認も厳格に行われているのに対し、インドではそうした基盤がないところに個人番号制度を導入したことから、人身売買で外国から来た被害者にも「インド人としての個人番号」が付与されてしまっているらしい（手続きしたのはだれ？売春宿の主人？）。偽情報で登録されると、実年齢が 18 歳以下でも登録年齢が 18 歳以上となっていれば成人扱い。真実はネパールから連れてこられた 18 歳未満の少女が売春宿で強制的に働かされていたとしても、法的にはインド国籍の 18 歳以上の女性として取り扱われて、救出・保護ができず、ネパールに連れ戻すことが極めて困難になってしまう。これは非常に大きな問題で、インドにおける DX の極めて大きな負の側面と言える。ひどい。ひどすぎる！

8 月 28 日（月）

ツアー最終日は移動のみ。もうしばらくネパールに残るまるちゃんをおいて、インドに向かうまり子さんとラジャさん、帰国する私とは空港へ。久々のネパールの皆さんさようなら。来年も会えますように！

終わりに

今年はコロナ開けの 4 年ぶりツアーと言うことで、参加者はわずか 2 名。少数であるが故に小回りがきき「夜の街」まで体験することができた。4 年の間に人も街も変化していて、良くなったところもあれば、新たな問題が生まれているところもあった。こうした現実をより多くの人たちに見て頂きたく、来年はツアー参加者が増えることを期待したい。

スタディツアーに参加して

丸山　茜

「あなたはこの NGO に興味あると思うから調べてみたら？」

JICA 海外協力隊候補生として訓練を受けていたときに、ネパール語講師から紹介されたのがマイティ・ネパールだった。調べていくと、日本の NGO ラリグラス・ジャパンが支援をしていることが分かった。メールで問い合わせると、代表の長谷川さんからすぐにメールが来た。マイティ・ネパールは一般の人が突然行っても見学することはできないこと、興味があるならスタディツアーに参加するのがよい、とのことだった。私は、隊員としてネパールに派遣されている間にぜひ参加させてほしい、と返信した。2019 年 9 月のことだ。翌年の 1 月、私はネパールに派遣され、そして 3 月 COVID-19 パンデミックが起き、全世界の協力隊員は日本に緊急帰国することになった。その後は、皆が知る通り、検疫措置が強化され、海外渡航が出来る状態ではなくなってしまった。多くの人が努力したくても出来ない経験をし、この先の未来を描くことが困難な時間を過ごした。私も、ネパールへの再派遣は叶わないまま、隊員としての身分を終えることを余儀なくされ、日本でマンスリーアパートを借りながらアルバイトや派遣をして過ごしていた。それでも人は考える、何かやれることはないのか、と。このまま海外に行けないままで終わるのは嫌だ、その思いで、国際協力を大学院で学ぶことを決め、2 度目の挑戦で入学することができた。迎えた初めての夏休み、学生ゆえに仕事による拘束はない、今ならスタディツアーに参加できる！　そう思い立ち、再度、長谷川さんにメールを送った。今年はコロナ後初めて、スタディツアーを再開させる計画である、とのこと。私の夏休みの予定は決まった。初めてメールをしてから 4 年の歳月を経て、スタディツアーに参加することが決まった。

初めて訪れたマイティ・ネパールでは驚くべきことが数多くあった。カトマンズ市内にこんなにも広大な土地があり、こんなにも立派な建物があったのか。ドイツの支援によってつくられたこの施設は、維持費が高額であると聞き、支援の在り方を考えさせられた。中でも驚いたことは、統制と規律に守られた子供達は、今まで見てきたどの子供達とも違っていたことだ。外国人が来た、と大騒ぎすることも、写真を撮ってとせがんでくることもなければ、インスタのアカウントを教えて、などと話しかけてくることもない。聞けば、携帯電話は禁止されているとのこと。様々な誘惑のある社会の中で、将来自分の道をきちんと送っていくためには、規律ある教育が必要なのだと知った。清掃の行き届いた施設も、子供達が自分たちで掃除をし、年長者が年少の者にやり方を指導しているそうだ。

世界遺産のボダナートを過ぎたところにホスピスはあった。売春宿で働かされ、AIDS や精神疾患を患い、社会復帰することが叶わない女性たちが、お互い助け合い、穏やかに暮らす施設だ。コンドームを使用しない性交渉で HIV に罹患する確率は 0.1～１％と言われている。彼らは HIV キャリアとなるまで、一体どれだけ働かされてきたのだろう、今を静かに過ごす彼らの過去を想像することもつらい。彼女らが作ってくれたビーズ製品や手芸品を検品した。特にソンマヤが作ったフェルトのマグネットは出来がいい。これが海を渡って、お互いの顔も知らない日本の誰かのもとに届くということは、なんだかとっても素敵な事のように感じた。

ホスピスの女性たち同様、見過ごされている人達は他にもいる。ネパールでは障がい者への支援は十分とは言えない。NDWS は障がいのある人への支援をしている団体である。かつてネパールでは障がいがある子供を家の中に閉じ込め、隠し、ネグレクトされているという状態があったそうだ。NDWS のような団体は彼らの人権を守るためにも必要である。どんなバリアがあったとしても、全ての人が社会にインクルージョンされる未来をネパールには期待したい。

支援を行っていた中、病に倒れ、コロナ禍中に亡くなってしまったマヘンドラ君の家を訪れた。「マヘンドラはこの山道を弟が運転するバイクで

週に 2 回、下の町にある病院まで透析に通っていたんだよ」と聞いた。日本人で、この山道を通う事は出来るとしたら、プロのモトクロスライダーくらいのものだろう。マヘンドラ君も聡明でとてもいい子だったそうだが、弟くんもマヘンドラ君の世話をよく見ていたとのこと。彼はマヘンドラ君が亡くなった今、オーストラリアに出稼ぎに行っているとのことだった。彼は今でも家族のために働いている。大野国さんが、マヘンドラ君の父に伝えた言葉に私は涙が抑えられなかった。「来世でまた、マヘンドラ君の友達になりたい。」この言葉は、輪廻転生の概念があるこの国に対する深い理解と造詣があってからこその言葉だし、長くネパールの支援に携わり、自身も身銭を切ってサポートを続けてきたからこその言葉に、心が揺さぶられた。

ヘタウダでのプリベンション・キャンプでは 10 代後半の女の子たちが職業訓練と人身売買から身を守る教育を受けていた。彼女たちに混ざって、路上でウエストピッカーをしていた時に保護されたという幼い姉妹と性被害に遭い妊娠した少女が共に暮らしていた。彼女は私が想像することもできないような山奥の田舎にお母さんと二人きりで暮らしていて、学校に行ったこともないそうだ。彼女はもともと静かで寡黙な子であるとのことだが、自分の身に起きたことを今でもあまり話せていないとのことだった。1 回の性交渉で妊娠する確率は 25～30%、避妊をせずに性交渉をしていれば半年から 1 年で妊娠すると言われている。それを考えると、被害は 1 度ではなかったのかもしれないし、性教育の知識もないことから、自分の身に何が起きたのかもわからなかったかもしれない。突然、望まぬ妊娠をして、誰にも話せず一人で抱え込むということは誰にでも起こりえることだが、全く何も知識がない彼女自身の身体がどんどん変化していくことに、どれだけの恐怖と孤独を感じただろうか。やはり私には想像することすらできない。彼女に何度かネパール語で話しかけたが、返答はなかった。無視されたのかな、それとも内気であまりしゃべらない子だからかな、と思っていたら「あの子、たぶんネパール語が分からないんだとおもうよ」と聞かされた。ネパールではそれぞれの民族の言葉を母語とし、家庭では母語を使用し、初等教育のうちに国語としてネパール語を習う。彼女は教育を受けたことが無いので、彼女の民族の言葉であるタマン語しか話せないのだ。現在のネパールの若者の識字率は男子 90%、女子 80%。これでも改善してきたとはいえ、残された子供たちの置かれた環境は過酷だ。彼女は同じタマン族の女の子といつも一緒に過ごしていた。彼女にとっては初めてできた同世代の友達なのかもしれない。一方、2 週間前に保護されたばかりの幼い姉妹は自分の服も下着も何も持っていないという。ここで知った新事実だが、田舎の女の子はパンツを履かないのだという。パンツは工業製品で高価だし、ネパールの物は品質が粗悪ですぐにボロくなってしまう消耗品だから、お金に余裕がある家庭じゃないと買わない、とのこと。幼い姉妹の為に洋服とパンツを買ってプレゼントした。彼らにとって、人生初めて履いたパンツに違いない、そう話した。

「私の知らないネパール」極めつけは、大人の社会科見学、売春宿や立ちんぼ界隈を巡るナイトツアーだ。一見すると普通のドカン（軽食店）だが、入り口にチカチカと光る LED ライトが下品に垂らされているのが目印だ。店で女の子を選んで、店の奥の個室か、または近くの「ゲストハウス」という名のラブホでサービスを提供しているのだという。実際に「売春を手広くやっている」という大人の社交場にも行ってみた。店は 2 階建て構造で吹き抜け、1 階はダンスフロア、銀座や六本木のディスコを想像してもらえたらよい。フロアの端に女の子の待機スペースがある。2 階はキャバクラの様相で、席について女の子と酒を飲む。1 階と 2 階は吹き抜けなので、2 階から待機中の女の子を選んで呼ぶこともできる。招かざる客の私たちに対する、女の子や黒服、警備員の視線は厳しい。あんな目で見られたことは未だかつてなかった。ホテルのあるタメルでも物乞いをしながらシンナーを吸っている少年の集団を見かけた。この子たちは将来、どうなるのでしょうか。

ホスピスの女性たちと、ホスピス出身の子どもたちと一緒にピクニックに。参加者は 55 名。そのうち抗 HIV 薬を飲んでいないのは 3 名だけとのことでした。驚愕のポジティブ率の集団です。普段、ホスピスとマイティ本部とで分かれて暮らす少女が「マミー」と言って、母親に抱き着いていた。マイティを卒業して、自立して生活している先輩達はさながら同窓会のような様相で、こういう先輩後輩たちのつながりが、彼らが社会で生きる力をはぐくんでいるのだと思った。帰り道の車内「ハイキング終わっちゃったな～」女の子たちは車窓を眺めている。カトマンズの埃っぽい空気が流れ込んでくる。外には虹がかかっていた。

最後になりましたが、このような貴重な機会に参加させていただき、心より感謝申し上げます。代表の長谷川さんには何から何まで教えていただき、感謝の言葉しかありません。大野国さん、いろいろ教えていただいたり、面倒を見ていただきありがとうございました。ラジャンダイ、また素晴らしいネパール人に会ってしまいました。またご一緒出来ることを楽しみにしています。また、参加できる日を待ち望んで・・・　　（終）

※本誌記事および画像の無断転用を禁じます。